

学位論文審査の結果の要旨

田中厚資

本学位論文では、海洋漂流プラスチックからの化学物質の生物組織への移行・蓄積を、臭素化ジフェニルエーテル類(PBDEs)と海鳥に焦点を当て、研究を行った。まず、ベーリング海のハシボソミズナギドリについて、摂食プラスチックから体組織へPBDEsが移行・蓄積することを明らかにした。次に、スタックオイルがプラスチックマトリクスからの疎水性添加剤の溶出を促進することを明らかにした。成果を発表した論文は、摂食プラスチックから生物組織への化学物質の移行・蓄積を世界で初めて実証したものであり、国際的な海洋プラスチック汚染の影響評価書でも引用され、Faculty of 1000 に選抜された。博士課程後半では、ベーリング海のハシボソミズナギドリに加えて、北海、インド洋の海鳥、計4種を対象に比較研究を行い、摂食プラスチックから生物組織への化学物質の移行機構・取り込まれた化学物質の体内動態の解明に取り組んだ。田中氏の研究は、該当分野の研究に大きく貢献するものである。

本論文が多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士(農学)の学位論文として十分に価値のあるものと判断し、合格と判定した。

最終試験の結果の要旨

田中厚資

最終試験は、平成29年1月10日に東京農工大学農学部にて、学位論文の公開発表に引き続き、論文審査委員により行われた。最終試験では学位論文の専門領域に関する質疑応答がなされた。その結果、本審査委員会は田中厚資氏が自立して研究を進めることができる学力と見識を有しており、博士（農学）の学位を授与するに足る資格があると認め、最終試験を合格と判定した。